



第 3 9 号
平成 19 年
2 月 発 行

本当の『やさしさ』を求めて

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 洵

日常皆さんが感じている「やさしさ」とは何でしょうか。本来は思いやり、親切を意味するやさしさが、最近はお互いを傷つけないやさしさへと様相が変わってきてはいないでしょうか。

直すべきこと、直すべきことに気づいていながら、相手の気持ちを過剰に意識して、「まあいいだろう」「誰かがやるだろう」「そのうち気づくだろう」と見過ごし放置してしまう。それらは思いやりというより、「なれあい」以外の何ものでもありません。例えば、職場内での申送りが不徹底であったり、整理整頓がおろそかになっている状態をそのままにしておく、それが問題であると思わなくなります。

なれあいの蔓延は、危機管理意識の低下にもつながり、弊害は計り知れないものがあります。発生する苦情に対しても、自分の正当性を訴えるばかりで、クレームをもみ消そうとして、いつそう問題を大きくしてしまいます。

当たり前のことをきちんと行う自己改善が、職場人の前提です。それでも生じる抜けや落ちを、なれあわずに指摘してあげながらカバーしあう「やさしさ」を大切にしたいものです。それぞれの職域での連携を密にして、本当のやさしさを取り戻して、「望洋荘」に住む皆さんに温かい思いやりを届けて下さい。



2月11日(日)に行なわれた「2月の誕生日会」

誕生日のプレゼントを貰って喜ぶ入居者様、余興のゲームを楽しむ入居者様。とても良い笑顔でしょう。これからも元気で楽しく過ごして頂きたいと思っています。

節分(豆まき) 二月三日

二月三日(土) 午前十時より、年男・年女の入居者様及び職員による豆まきを行いました。
 神棚にお祈りしてから出発して、二階の居室・一階の居室・事務所・医務室・地下の当直室・厨房の順に鬼を追いかけながら、楽しそうに豆まきをしました。その後は、入居者の皆様、美味しいと豆を食べてられておりました。昔からある風習なので「昔は子供達と一緒に豆まきをした」など昔話をする方も居られました。



お茶会 塩屋岬広場

二月十八日(日) 午前十時より、それぞれのユニットより交流を図る目的でお茶会を開催致しました。普段お会いする機会のない入居者様同士楽しく会話する光景が見られました。特に男性の入居者様は、全体的に人数が少なく、他のユニットの入居者様とお話が出来た事すごく良かったと大好評でした。茄子の漬物・沢庵・羊羹などのお茶菓子を食べながら戦時中の苦労話に花が咲いていました。



買い物ツアー スーパーセンター大原

二月七日(水) 九時三〇分に望洋荘を出発して、スーパーセンター大原に買い物に出掛けました。前日より何をかうか考えていた様子で、目的の物をゲットして満足そうでした。また昼食はスーパーで買出し、施設に持ち帰り、塩屋岬広場でお食事を摂りました。チラン寿司がとても美味しかったです。久々の外出に皆様楽しまれたようです。



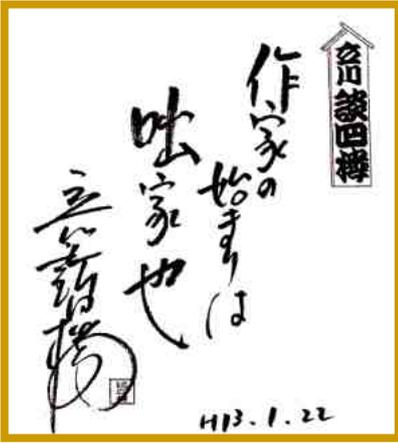
「いわき寄席」出演者の色紙集から

「いわき寄席」出演者の直筆の色紙を紹介致します。

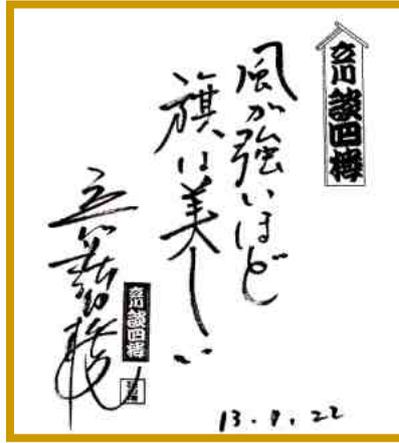
立川 談四楼 師匠の作品です。

○第六六回記念いわき寄席 平成十二年一月二二日

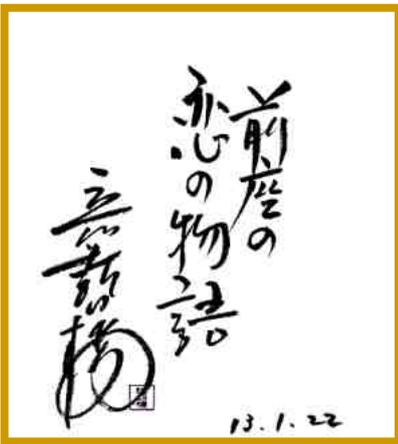
(演目) 三木助雑感、お国訛り、柳田格之進



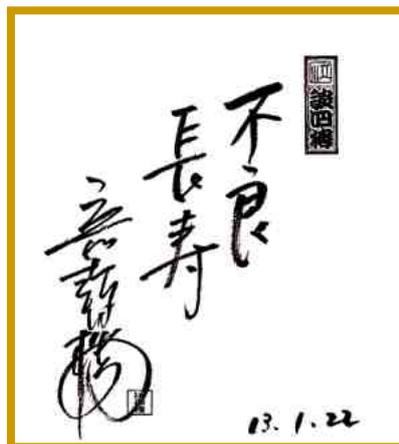
立川 談四楼 師匠
(第 66 回いわき寄席 H13.1.22)
作家の
始まりは
吐家也



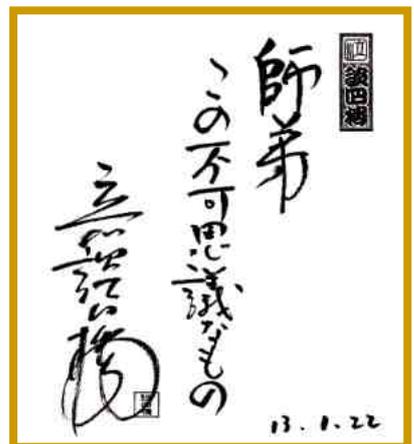
立川 談四楼 師匠
(第 66 回いわき寄席 H13.1.22)
風が強いほど
旗は美しい



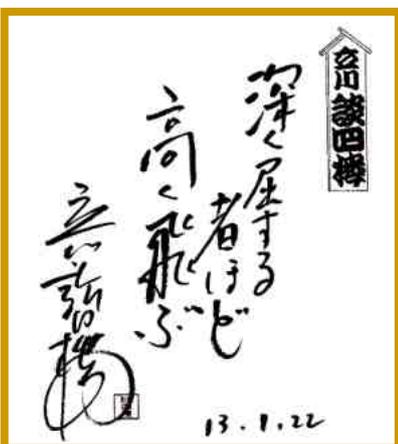
立川 談四楼 師匠
(第 66 回いわき寄席 H13.1.22)
前座の
恋の物語



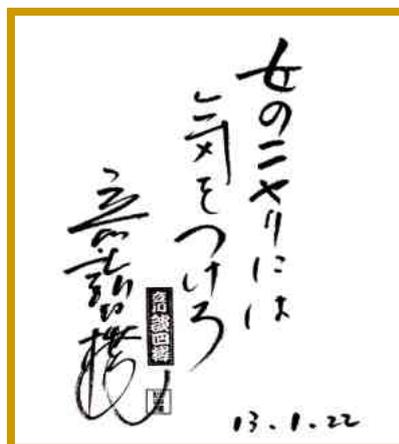
立川 談四楼 師匠
(第 66 回いわき寄席 H13.1.22)
不良
長寿



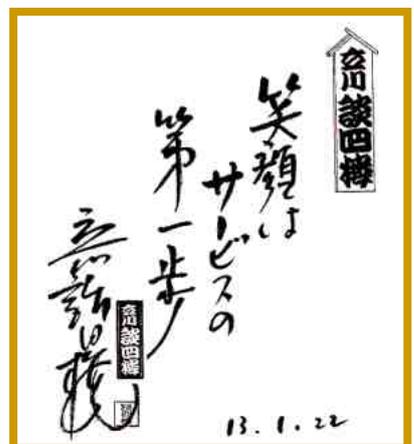
立川 談四楼 師匠
(第 66 回いわき寄席 H13.1.22)
師弟
この不可思議なもの



立川 談四楼 師匠
(第 66 回いわき寄席 H13.1.22)
深く居る
者ほど
高く飛ぶ



立川 談四楼 師匠
(第 66 回いわき寄席 H13.1.22)
女のニヤリには
氣をつけろ



立川 談四楼 師匠
(第 66 回いわき寄席 H13.1.22)
笑顔は
サービスの
第一歩

三月の行事予定

今月号より翌月の行事予定を掲載し、御家族様にも『望洋荘』でいつ、どこで、なにをしているのかを知って頂き、自由に参加して頂きたいと思っております。

三月三日(土) 十二時～十四時

豊間ユニット 「ひな祭り会」

ユニット内で、ラーメンや海老フライ、蟹などを調理して楽しくお食事会

三月七日(水) 十四時三〇分～十六時

永崎ユニット 「お茶会」

ユニット内で、ホットケーキやお好み焼きを作ってお茶会

三月十一日(日) 午前の部・午後の部

塩屋岬広場 「三月のお誕生会」

午前の部(永崎・四倉・勿来ユニット)

午前十時～午前十一時二〇分

午後の部(薄磯・豊間・しおやさきユニット)

午後二時～午後三時三〇分

三月二十二日(木)

正面玄関ホール・塩屋岬広場

「キャプテン船水」午前十時～午前十一時

ハーモニカ演奏会開催

三月二十九日(木)

薄磯ユニットにて「カラオケ倶楽部」

※都合により一部変更になる事もございますので来荘の際は、御一報下さいませお願いいたします。尚この他にもユニット毎に各種行事を実施致しておりますので各ユニット職員にお尋ね下さい。

生活相談員から一言

生活相談員

坂本 伯仁

当施設においては、開設当初よりユニットケアという形式を取り入れ、プライベートを配慮しつつ、少人数での構成(一ユニット十六名)による家庭的な雰囲気のもと、「生活を共にしていくケア・一人ひとりの暮らしを支えるケア」を目指すと共に、集団生活であるからこそその楽しみや人の関わりがあり、「共に過ごす時間」を大切にしているケアを実施してきました。

しかし、現状においてはまだまだ改善していく点が多くみられており、入居者様がより居心地の良い環境で過ごせるにはどのようにすれば良いかなどを、各職種の担当者と日々話し合いを重ねてきました。

その結果、一人ひとりに寄り添いながら家庭的な雰囲気(介護から生活の場)を作りだすことを目指していくという結論に至りました。そのためには、より個々の身体的・精神的状況をその都度確認しながら、入居者様やご家族の意向を踏まえて、これまでの自宅での暮らしを施設という環境の中でも出来るだけ近づけ、ここが「我が家だ」と言われるような努力を重ねていきたいと思えます。また、他入居者様と過ごす時間についても、無理にレクリエーションや行事へ参加頂くのではなく、その訴えや状況を勘案しながら、本人の安心

感を大切にこころみていくことを考えています。

また、それぞれ暮らすユニットの特色についても、介護職を中心に話し合いを持っており、施設全体での行事とは別にユニットごとの年間行事計画及び勉強会等も予定しています。そして、将来的な入居者様のイメージや職員像を模索しながら、「安心して過ごせる環境と仕方なしの入所から希望ある将来」へ切り替えられる、そんな楽しみが持てる施設を目指していきたいと思えます。今後、ご家族様への説明会等を含め、経過報告を行いながら、ご意見・ご要望等を取り入れ、生活環境の向上に努めていきたいと思えますので、宜しく御願い致します。

今月の言葉その

(倫理研究所編標語集から)

心に太陽をかかげよう

それは希望をかかげること。目標を持つことだ。前途が暗澹としていけば、いほど希望を高くかかげる。燃えるような灯火があれば、そこに向けて進んでいけるではないか。

編集後記

『望洋荘』便り

平成十九年二月一日発行

発行所 いわき市

平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373

FAX (0246) 55-7255